

さいたま

Nursing

2021.4.26 NO. 127



羊山公園 芝桜 (提供: 秩父市)

会員数 25,974名 (2021.2.28 現在)

保 健 師	444名
助 産 師	954名
看 護 師	23,932名
准 看 護 師	644名
対 前 年 度 比	144名増



埼玉県看護協会ホームページ
<https://www.nurse-saitama.jp>

特集

ともに、つくる、「看護」

P4~7

- ❖ 令和3年度事業開始にあたって P2
- ❖ 2021年度研修企画・運営“時の流れをよむ” P3
- ❖ 特集：ともに、つくる、「看護」
 - with コロナ時代の教育を拓く P4~5
 - with コロナ 今だから伝えたい「看護」 P6~7
- ❖ 3.11メモリアル企画を終えて／お知らせ P8

令和3年度事業開始にあたって

公益社団法人埼玉県看護協会

会長 松田 久美子



会員の皆様には、日頃より協会事業の推進について、ご理解・ご協力を賜り深く感謝申し上げます。

COVID-19は、この一年間感染者数の増加と減少を繰り返し、警戒が続いております。ワクチンの接種が始まりましたが、会員の皆さまにおかれましては、まだまだご苦勞の日々が続いていることと思います。医療・保健・福祉・介護・教育、それぞれの場で懸命のご活動をいただき、心より敬意と感謝を申し上げます。

昨年度は、埼玉県・さいたま市よりCOVID-19電話相談事業を受託しました。新規事業として、準備から含めておよそ9カ月の長きにわたり100余名の保健師・看護師の皆さまに活躍いただきました。地域の病院・施設・保健所の負担を少しでも軽減できたこと、また、県民の不安に応える相談に尽力したこと、そして、一人の感染者を出すことなく運営できましたことは、看護協会として誇りに思います。皆さまのご助力により、当事業が順調に進められたことにつきまして厚くお礼申し上げます。

また、昨年9月の理事会で話し合われたCOVID-19対応の実態把握について、12月にアンケート調査を実施しました。ご協力により、多くの回答が寄せられ、その中で、看護職の皆さまが、職場や家庭で様々な困難を抱えていることが明らかになりました。これを受け、当協会では看護職の皆さまを対象としたメンタル面のサポートを行う事業を開始することにいたしました。

令和3年度の事業は、重点事業3点、継続して取り組む事業2点に加え、その他中期事業を掲げ、理事会でご承認いただきました。立ち止まることなく前進し、新しい局面に対峙する所存です。さらに新年度は、「新しい生活様式」に見合った研修体制を構築し、多様な学び方を提供いたします。タブロイド版の「教育計画」も会員の声から企画されました。伝統を重んじつつもチャレンジを試みてまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

今年も静かな花見となりましたが、お体をご自愛いただき、この困難な事態を一日も早く収束できますよう、前向きに取り組んでまいりましょう。今年度もよろしくお願い申し上げます。

2021年度研修企画・運営

“時の流れをよむ”

公益社団法人埼玉県看護協会 研修担当 深石タカ子

2021年度の『一般研修』は、変化する社会・医療情勢、会員の皆様からのご意見をもとに研修企画をいたしました。超高齢多死社会に向けて推進される地域包括ケアシステムに対応する看護実践能力に重きをおき、COVID-19に関連する内容も考慮しています。看護の原点である倫理、感染症対策、地域・在宅看護に対応する看護実践および看護管理能力向上を中心に充実した企画となりました。昨年度に開催できなかった研修を含めた26の新設コースの他、内容・講師変更など、新たな時の風を取り入れた企画になっておりますので、是非、ご参加ください。

《2021年度 新規・変更研修のポイント》

	研 修 名	ポイント
新人看護職員研修	4/19 スキンケア 6/4 看護記録 9/13 メンタルヘルス 6/3 分娩助産 7/2 助産師のためのメンタルヘルス	5コースの新規・内容変更など、リニューアルした19コース。コロナ禍での新人を考慮したメンタルヘルス研修も開催
看護実践	看護共通 9/8 これからのリハビリテーション -切れ目のないリハビリテーション看護をめざして-	高齢や障害があってもその人らしく生活するために重要なリハビリテーションについて、看護職の果たす役割を考える
	感染 9/6 感染予防対策Ⅲ	中小規模病院で院内感染管理推進を担うための感染管理
	救命救急 10/3 11/21 12/19 AHA HC-BLSプロバイダーコース(一次救命処置)	オンライン研修が推進される状況に対応したe-ラーニングと演習を併用した構成に変更
	精神 7/1 向精神薬を使用する患者の看護 8/27 患者の「自死」への思いに気づく 12/14 ネット・スマホ依存症	社会の様式変化により生じた依存症、コロナ禍に起因した自殺の増加に着目しての新企画
	がん 12/17 がん治療の最前線 1/19 がんサバイバー	「がんサバイバー」がんサバイバーとして、歌手：木山裕策氏を迎え、がんサバイバーを理解し看護職の果たす役割を考える
地域・在宅	8/28 在宅・療養施設で活かせる感染管理 9/25 在宅での看とり 12/11 在宅での薬の管理 1/15 神経難病患者の「生きる」を支える看護	地域完結型医療への対応に向けて、在宅・療養施設で活用できる研修を4コース新設
倫理	11/12 子どもを虐待から守る 1/21 医療・介護現場における高齢者の虐待	虐待に焦点を当てた2コースを新設し6コースに充実
看護管理	5/27 6/22 副部長研修Ⅰ・Ⅱ	副看護部長の役割を果たすための「学習する組織を作る・組織の問題解決をファシリテートする」能力を高める

研修運営では、皆さまからの望む声とともにCOVID-19拡大により必然となりましたオンライン研修を開催しています。今年度も感染症の動向を注視しながら、Zoomによるオンラインを中心に、研修の特徴を考慮して対面型集合、対面型とオンラインを併用したハイブリッド形式も取り入れてまいります。

オンライン研修では、Zoom入室に関するメール送受信の不具合やアンケート回答などに、ご不便をおかけすることもありました。今年度から、研修受講の利便性を図るため「研修情報管理システム（マナブル）」を導入いたします。「マナブル」にご登録いただき、ご自身のマイページへアクセスすることで、研修検索・申込み・受講・資料確認・アンケート回答・受講証明書発行まで、一貫した簡便な方法で受講できます。また、受講管理機能により、研修履歴管理が可能になりますので、キャリア開発にお役立ていただけることを期待しています。



withコロナ時代の教育を拓く

コロナ禍の「今」だからこそできる「変化」があります。オンラインなど新しい手段も定着しつつある「コロナ時代の教育」について、新人教育にたずさわる方々にお話をうかがいました。

VOICE 01

全員で知恵を紡いでまなびの機会をとめない、共創の時代のはじまりを自覚しよう

ひとづくり工房esuco(えすこ)代表／看護師 ナースファシリテーター／生涯学習財団認定ワークショップデザイナー(マスター)

浦山絵里 氏



2020年を振り返ると、どなたの心の中にもコロナ禍で起こった様々な事象が思い出されてくると思います。全世界的な災害の中、私たちは否応もなく知恵をあわせて、試行錯誤を繰り返すことになりました。当初は三密を避けるために様々な研修機会も中止にせざるを得なくなり、「学びたい」方の「まなびの機会」が失われた年でした。

私はこれまでファシリテーションを使って組織内に対話する場をつくることで、組織や人が元気になることを支援してきました。ファシリテーションはある意味「三密をつくるスキル」で参加型が必須なので、昨年2月以降春の間は、早くからオンラインに切り替わった大学の授業を除いて全てが停止しました。看護の現場では、新入職員や異動者を迎える大切な研修やチームづくりの時間が一挙に奪われたのでした。

そんな中、毎年講師をさせていただいている埼玉県看護協会の「専任教員養成講習会」担当者から一本の電話がありました。「こんな時期ですが、それでもこの研修だけは止められないのです。なんとかならないでしょうか？」という熱い想いのこもったご相談でした。その「想い」と参加される方の「リスク」を考え、それまで実施していた大学のオンライン参加型授業の体験をもとに、オンラインでの研修を提案しました。参加者も研修担当者も初めての体験でしたから、実施に先立ちZoomの使い方やオンラインでの研修のお作法を加えた「接続テスト」を実施したのですが、この事前準備は私たち

の予想を超え、接続だけで3時間もかかるという大事業になりました。また実際の講座運営には研修企画者と講師、テクニカルサポーター、そして参加者も、共にチームとして実施する研修となりました。全員が初めての体験でドキドキする中、ネット環境の整わない参加者には北浦和の会場で回線を使ってもらったりなど、企画担当者と共に知恵を絞って柔軟な対応を考えました。その甲斐あって、その後は受講生が率先してグループワークをオンラインでできたということです。まさに、これからのオンライン講義を担う看護教員が生まれる研修になったのです。

今回のように誰も答えを持っていない新しい事態に直面した時、なんのための「場」なのかと目的を明確にした上で、役割にとらわれず「わからない、知らない、できない」ということを個々が自覚し、対話し、できることを持ち寄り試行錯誤することで、チームとしてよりよい変化をしていけるのだとCOVID-19は私たちに教えてくれました。

まだしばらく続くwithコロナの時代、私たちはまなびたいと思ったときにまなべる環境を、参加者や初任者も含めた多様なメンバーとフレキシブルに考え試行錯誤し合える、そんな全員参加型のチームをつくっていくことが重要な視点となります。経験や役割の違いを超えて「在りたいゴール」を目指して共に考えあう、共創の時代が始まったのです。

この新しい「まなびのプロセス」を、みんなで楽しんでいきましょう！

VOICE 02

自己効力感を高める ～コロナ禍における新人教育を振り返って～

さいたま市民医療センター 相馬 真貴子 氏



2020年2月、日本国内でもCOVID-19が感染拡大し、医療現場のみならず新人看護師の教育環境にも大きく影響しました。新人看護師の教育をご担当になる皆様にとっては苦慮された一年となったのではないのでしょうか。

当院では、研修場所でのCOVID-19による感染拡大を回避するため、技術演習などを含めた集合研修は厳選した上で開催しました。e-ラーニングでの学習などを有効活用しながら、削減された技術演習については部署へとシフトし、On the Job Trainingにて対応してきました。新人看護師は先輩看護師とペアとなり行動し、先輩看護師が患者と関わる姿を見習いながらコミュニケーション能力の向上をはかり、また、先輩看護師の実践場面を通して自己の実践を内省する機会をつくりながら、看護実践能力の強化しました。

COVID-19は、新人看護師のみならず看護学生の教育環境にも大きな影響を与えています。それゆえに、4月に入職する多くの新人看護師が、臨床現場で理想と現実のギャップに直面し、リアリティショックを引き起こすのではないかと推察されます。新人看護師のリアリティショックを克服するためには、先輩看護師からのポジティブな言葉がけや成功体験を積み重ねることのできる環境、同僚などとの思いを共有できる場を定期的に確保するなど、自己効力感を高めていく体制づくりが必要になるのではないかと考えています。これからもwithコロナで感染対策に柔軟に対応しながら、更に教育環境の充実を深めていきます。

VOICE 03

2020年度 新人教育担当者より

深谷赤十字病院 6階南病棟 佐藤 真理奈 氏



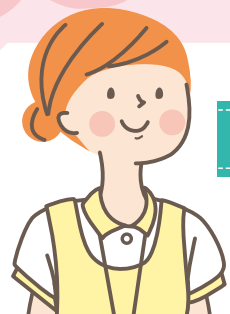
当院では毎年入職後に基本的な知識、技術を学ぶための3ヶ月間の新人研修がありますが、2020年度はCOVID-19の影響で例年通りの研修ができませんでした。そのため病棟でも知識、技術について理解できているかを確認し、丁寧に指導をしてきました。コロナ禍で新人歓迎会等イベントが中止となったことでコミュニケーションの場も少なくなってしまう、仕事以外の様子を知る機会も少なくなり新人さんとの関係を築いていくことが難しく感じるがありました。

これから一緒に働く新人さんはコロナ禍で実習ができておらず、現場とのギャップを感じ戸惑うことがあると思います。そのため気持ちに寄り添い、1人1人にあった指導ができるようにしていきたいと考えています。また、私自身も新人教育に携わることで多くのことを学ぶ機会が増えると考えています。これから一緒に成長していけると嬉しいです。

2020年度の新人さん1年間お疲れ様でした。入職してから辛いことや辞めたいと思うこともたくさんあったと思いますが、これからも一緒に働く仲間として頑張っていきたいと思います。

with コロナ 今だから伝えた い「看護」

前号(126号)へのアンケートに「明るい、新しい看護を感じさせるような前向きな話題があるとうれしいです」というリクエストをお寄せいただきました。そこで、前向きな「看護」にてあった皆さまの声をご紹介します。



スタッフへの感謝

介護老人保健施設秋桜 統括課長
翠川 正美 氏

私たち介護老人保健施設秋桜は、入所定員100名のユニットケアを行っています。今年1月に、職員と入所利用者様1名がCOVID-19陽性になりました。幸いにして、施設内でのクラスターとなることはなく、無事に乗り越えることができました。

陽性となった利用者様の対応には、「自分の担当の方だから」と介護スタッフが5人も名乗り出てくれました。看護には、他の利用者様への影響を考えて、管理職である私が入りました。とはいえ、看護の介入をほとんど必要としないくらい、スタッ

フが積極的に試行錯誤しながらケアにあたってくれました。壁に張り出した対応マニュアルには、書き足した文字がびっしりと並ぶほどでした。コロナ禍以前より、スタッフから新しいチャレンジへの意欲が示された際には、「やってみてもらい」「任せてみて」「期限を決めて振り返る」ことを意識的に行っていました。日常の繰り返し、今回も前向きな対応を生み出したのであるとしたら嬉しいことだと感じました。

また、年末年始である12/31～1/4にかけて、私が講師となり事務も含む全職員に感染予防の講義を行っていました。外国人スタッフも理解できるように心がけて伝える工夫をしました。折よく講義を開催できたことで全員が同じ知識を持てたのも良かったように思います。

その後、入院を経て利用者様は無事に回復し、お雛飾りが施される頃には元気に歩くこともできました。今後も、スタッフとの連携をしっかりと取りながら対応していこうと思います。

COVID-19に感染して...

保健所の皆さんに感謝です

年始から続く忙しさにホッと一息ついた休み明けの夜に、背中中の痛みと喉の違和感がありました。風邪とは違う、いつもと違う—そんな体調でした。PCR検査を受けたところ、陽性という結果でした。混乱し、なかなか事実を受け入れることができないまま帰宅しました。そこへ、保健所から電話が入り「大変でしたね。体調はいかがですか?何かありましたら遠慮なくご連絡ください」と優しく、丁寧にお声がけをいただきました。その言葉に救われる思いでした。その後10日余り、毎日保健所からご連絡をいただきました。体調の確認、食事のことなど心配してくださいました。なんとも言えない疎外感の中にいた私にとっては、その会話で“生きている”実感を得ていたように思います。今回、改めて看護師として相手の立場になり、寄り添ってケアをしていくことの大切さを感じました。保健所の皆さまには心からお礼をお伝えたいです。

看護の仕事に改めて誇りを感じました

COVID-19第3波の1月、濃厚接触者に該当するということで検査を受け、無症状ながら陽性となりました。悪化したのは、翌朝でした。悪寒、40℃の発熱と同時に味覚嗅覚を失い3日間の自宅療養を経て入院となりました。入院時には、肺炎を発症していました。人工呼吸器、ECMOの説明があり、COVID-19の怖さを感じました。家族や仲間の元に戻ることはできるのか、看護師として再び働くことはできるのか。様々な思いが駆け巡りました。

不安な気持ちの中「眠れましたか?大丈夫、元気になりますからね」と看護師さんから声をかけていただきました。ベッドサイドに医師や看護師さんが来てくれることが、どれほど力になるのかを実感し、看護職のすばらしさを改めて覚えました。「また看護職として頑張ろう」その思いが力になりました。看護師として、これからも誇りをもって働きたいと思っています。

スピン オフ

支部活動 REPORT

支部長へのインタビューをもとに、各支部の活動を紹介するコーナー。今回は『with コロナ 今だから伝えた い「看護」』についてうかがった特別版です。

第5 支部

行田市・羽生市・加須市・
鴻巣市・北本市・桶川市・
上尾市・伊奈町/
会員数2,025名



支部長
長澤明子 氏
(上尾中央看護専門学校)

揺るぎない知識と技術で乗り越える!

私たち第5支部で発行した「支部だより」において、各施設での感染症対応について特集しました。昨年の今頃は、フェースシールドや防護服を手作りしました。また、困難を極めたアルコール製剤の調達などモノをそろえる苦労がありました。一方で、感染防止策として面会の中止や、人の往来が制限され、患者、地域の方にメンタル低下がみられました。それらをいかに支えるか、認知機能の減退への対応などの様々な苦慮がありました。支部活動では集合することすらまななかつた昨年度ではありましたが、支部の会員様皆さまが各々の持ち場で活躍されています。その奮闘に感謝とともに胸が熱くなります。

いまだ収束が見えないCOVID-19との闘いで、「本当に勝てるのか」不明なまま対峙し、挑んでいる看護職の活躍は、人気アニメの『ワンピース』や『鬼滅の刃』にみられるようなヒーローのように感じます。様々な職能を持つ看護職一人ひとりが団結し、人間愛をもって患者、地域の方々、家族に対して健康の守り人として責務を果たしています。私たち看護職には、揺るぎない知識、技術があります。予断は許されない現況ですが、看護の力で超えていきましょう。

埼玉県看護協会の新たな取り組み

感染予防対策相談 〈5月中旬開始〉

感染対策の専門知識を持つ看護師(感染管理認定看護師)が相談員となり、地域の看護職からの相談に対応する窓口を開設します。タイムリーかつ個別にお答えすることで、県内の医療・介護・福祉施設の感染拡大予防を支援いたします。

〈開始時期〉5月中旬予定(詳細はホームページでご案内)

〈相談方法〉電話・オンライン(Zoom)・メール

〈相談費用〉無料

〈相談者〉ナレჯナering代表
感染管理認定看護師
朝倉智美 氏

看護職のための心の保健室 「あじさいルーム」開設

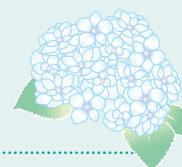
COVID-19に何らかの影響を受けた県内で就業する看護職の皆さまを対象とした相談室が開設されました。落ち込んだ気持ちを安心してお話いただける場所です。また、スタッフのメンタルヘルスに関するご相談も受け付けております。

〈相談方法〉電話・対面

〈相談費用〉無料

〈相談者〉菊池臨床心理オフィス
臨床心理士・公認心理師
菊池礼子 氏

ご予約・詳細はHPへ <https://www.nurse-saitama.jp/ajisai/>



令和3年度、あなたはどんな「看護」をつくりたいと思われませんか?

今回の特集『ともに、つくる、「看護」』を読み、あなたがつくりたい、あなたがめざす「看護」を下の吹き出しに書いてみましょう!

令和3年度は、

な看護をつくりたい!

3.11メモリアル企画を終えて

東日本大震災から10年を経て、「命をつなぐ・伝える～10年前のあの日から未来～」を企画し、Web開催をしました。当日は、受講者80名と講師の関係者、災害委員を含め100名の方が参加しました。

午前の部は、岩手県の医療ガスメーカー北良株式会社 代表取締役 笠井 健 氏による「災害に強い社会を創る」と題した講演をいただきました。重要なライフラインである酸素や水を在宅医療の現場や病院にいかにして切らすことなく届けるか。会社としての取り組みと利用者の支援について東日本震災、熊本地震、西日本豪雨の状況とそこからの教訓をもとにお話いただきました。

午後は、同じく岩手県から県立病院の震災時の取り組みについて「あの日から10年、今、語り継ぐ」と題し、同院の看護部長 高橋 弥栄子 氏より災害下の職員の気持ちや思いを中心に岩手の中核医療を担っている病院の対応についてお話いただきました。当時を語るのみにとどまらず、発災時の教訓を元に今後の災害にいかに対応するのか。お二人の講師から学んだことを、いつか必ず来る『その時』に備えていくことについて深く考える契機となる一日となりました。

今後も、未来の備えとなるよう取り組んでまいります。

災害看護対策委員 山口 陽介



▼ INFORMATION

令和3年度 通常総会 (6月19日開催予定)について

感染予防および感染拡大防止の観点より、本年度の通常総会は最小限の人数での開催を予定しております。

- 委任状**の提出にご協力ください
(近日送付「令和3年度総会要綱」153頁)
- 質疑の受付方法**は、本会ホームページにてお知らせします
ご協力いただけますようお願い申し上げます。

第29回 埼玉看護研究学会 (テーマ)今こそ看護一看護の力で未来共創～

期日：2021年12月4日(土)
ハイブリッド開催
(対面・WEB)

まもなく演題登録開始
2021年6月1日(火)
～7月20日(火)



編集後記

広報委員会

ワクチン接種が始まりましたが、COVID-19の感染者数の再増加により各看護現場では更なる感染防止の対策を講じられていることと思います。これまでも私たち看護職は、新型感染症に対して前向きに看護展開してきました。新しい生活様式を取り入れ、試行錯誤しながらリモート会議などを行い、共に活動してきました。結果、社会から一定の評価を得たように思います。どんな状況においても、周囲と共にその時に応じた看護をつくりあげる。広報委員会は、そんな看護職の姿勢をお伝えしたいと考え、今年度は『ともに、つくる「看護」』をテーマに広報誌を編集していきます。文末になりますが、今号にご協力いただいた皆様に、心よりお礼を申し上げます。

広報誌「さいたま」127号はいかがでしたか？ アンケートにお答えいただいた方の中から抽選でプレゼントが当たります。奮ってご参加ください。

- ◆応募締切：5/31(月) まで
- ◆抽選で30名様にクオカードをプレゼント

▼アンケート内容

- 1 興味を持った記事はありましたか？
- 2 企画を希望する研修がありましたらお聞かせください。
- 3 令和3年度、新たに取り組まれていることがありましたらお聞かせください。
- 4 本号へのご意見、ご感想をお聞かせください。
- 5 プレゼントに応募される方は、お名前、郵便番号、住所をご入力ください。



回答はこちら

